

ーみちしるべー

道標

NO.250

平成28年1月 日発行

秋田県立視覚支援学校



進路指導部



卒業生に聞く!



平成27年度に専攻科・理療科を卒業された方にアンケートを実施しました。現在の仕事についてや在学生へのアドバイスやメッセージをいただいたので、ご紹介します。

筑波大学理療科教員養成施設 入学

S・Rさん

私は、「点字」の学習に力を入れています。それは、私が墨字の使用が難しくなってきたことでもあります。養成施設で点字や触ることの重要性を学ぶことができたからです。将来、理療科教員としてだけではなく、視覚障害の専門職として、点字という「言葉」をもつことなどの大切さを伝えていきたいと考えています。在校生のみなさんも、視覚障害者のメリットのひとつである、触覚に優れている点を生かしながらがんばってください。



県内治療院勤務

N・Aさん



私は卒業後あけぼの治療院で働き、歩行困難などの理由で治療院通いが難しい患者さんに訪問マッサージを行っています。日々変化する苦痛が少しでも緩解するような施術を心がけています。在学中の皆さんは国家試験に向け勉強に励んでいることでしょうか。間違いの振り返りと毎日の繰り返し合格への一歩です。座学はもちろんですが臨床実習で得た経験は卒業後すぐに役立ち、積極的に学んだことは必ず宝になります。

訪問マッサージ会社勤務 S・Kさん

私は訪問マッサージの仕事をしています。

最近特に気を付けていることは言葉かけです。例えば、膝の屈曲運動をする際「膝を曲げますね」と話すより、「手で支えますので一緒に膝を曲げていきましょう」と話すとどうでしょうか。患者様の自発性を導けますし、施術者側の協力的な姿勢も伝わります。つまりは、患者様と施術師が同じ目標に向かうことが大切なのだと思います。当然と言えば当然なのですが、現実には意外と難しいものです。

今、既に臨床室に出ている人も、これからの人も、お互い頑張りましょう。



開業（現在訪問治療専門） K・Eさん

私は、卒業後準備の期間を経て6月から営業を開始しました。

仕事を始めて、種々の症状を抱えた患者さんと関わる中で己の未熟さに悩みは増すばかりで、改めて教科書を聞き直しています。お蔭様で多くのヒントが得られ、楽になったと言ってもらえるようになってきました。後輩の皆さんも、臨床に行き詰った際は今一度教科書を読み返してみることをお勧めします。又、「ああ、あったかい手。」と喜んで頂いた時は、手のぬくもりは心をも和らげることができるのだなと、私も小さな幸福感を味わっています。

治療院や訪問マッサージなどで勤務されている先輩からは、患者さんとのやりとりの大切さや素晴らしさを伺うことができました。卒業後の姿をイメージし、これからの生活や学習に臨んでいけたらと思います。

4名の卒業生の皆さん、お忙しい中、アンケートに御協力くださりありがとうございました。